

させぼ夢大学

発行●公益社団法人 させぼ夢大学
編集委員会
事務局／〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔭ビル3F
TEL.0956-25-9555 FAX.0956-25-9545
<https://www.yumedai.com/>
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

開催ご案内 25-9556

令和7年度
第4回

2025年 7月16日(水)
アルカスSASEBO 大ホール

開場 17:30
夢のひろば 18:00
講演 18:30(終了20:00)

No.349 <2025.7>

第4回講演会の講師は、「桃ちゃん」の愛称で親しまれている、俳優であり、戸板女子短期大学客員教授でもある菊池桃子さんです。

菊池さんは、東京都出身。1984年、高校1年生で芸能界デビュー。歌や映画、CM、テレビドラマ、ラジオ番組など、幅広い活動で、大きな人気を獲得し、昨年芸能生活40周年を迎えるました。

その間、40歳で法政大学大学院に入学し、3年後に修士号を取得。その後、母校である戸板女子短期大学の客員教授に就任し、現在までキャリア形成論等の講義を担当さ



れています。また、認定NPO法人「キャリア権推進ネットワーク」の理事も務めています。

菊池さんは、40歳からの学び直しで得た気づきとして、「人はいつでも学び直すチャンスがある。自分が知らないことを知るのはとても楽しい。まだまだ知らないことは沢山あるはず。一生涯、自分の好奇心と向き合いたい。」と言われています。

講演のテーマは「人生が楽しくなる大人の学び方」。

させぼ夢大学で学ぶ私たちに、ピッタリなお話が聴けるのではなか

るでしょうか。ご期待ください！

講 師 ● 俳優・戸板女子短期大学 客員教授

きくち ももこ
菊池 桃子氏

テーマ ● 人生が楽しくなる大人の学び方



次回のご案内

- と き／8月20日(水) 18:30～20:00
- 講 師／講談師 神田 紅 氏
- テーマ／大声と笑いで生きる明日への活力

●福岡市出身。文学座付属演劇研究所を経て女優の道を歩き始めるが、昭和54年、二代目神田山陽の講談の魅力にとりつかれ、門下生となり、「神田紅」を名乗る。平成元年、真打に昇進、旧本牧亭で昇進披露を興行した。平成14年に「紅一門」を旗揚げし、現在弟子は5人。日本講談協会会長として、講談の普及に努めるなど講談界を牽引している。

7月の講演会は第3水曜日です。

菊池 桃子氏のプロフィール

●1984年芸能界デビュー。戸板女子短期大学卒、法政大学大学院政策創造専攻修士課程修了。メンタルケアカウンセラーの資格保持。NPO法人キャリア権推進ネットワークの理事も務める。現在、芸能活動の他、戸板女子短期大学にてキャリア形成論等の講義を担当。研究分野は「雇用政策を踏まえた人々のキャリア形成」。著書「午後には陽のあたる場所」(扶桑社)がある。



せぼ夢大学講演会

が相撲道に一片の悔いなし 講師／二所ノ関 寛氏

我が相撲道に一片の悔いなし

目次

1. 自己紹介
2. 学年時代 右手の脱臼骨折
3. 入門 左手の骨折
4. 新入幕～大関昇進まで 自身の限界を感じて心身が泣れる、先代・鳴戸親方急逝
5. 大関時代 ライバルの悲劇、神道やマンガに関する学び
6. 稀勢時代 使命感と焦躁感、左大胸筋断裂
7. 引退後

キーワード

- ・ピンチをチャンスに変え続けた相撲人生
- ・心との向き合い方

二所ノ関 寛氏



■「ピンチをチャンスに変える！」

この言葉の意味を、二所ノ関親方の相撲人生を通して聴けてよかったです。人生には、浮き沈みが必ずある。この人生訓を活かしていきたいと思った。

佐世保市潮見町●山田 毅

■今を生きる。まっすぐ前進。継続は力なり。頼もしいよさこい「青嵐」に、心洗わされました。

二所ノ関寛氏の「ピンチをチャンスに活かす」聴き方、真剣な姿勢…。研ぎ澄ました心地よい時間でした。

佐世保市比良町●岡井 真紀

■二所ノ関寛氏の講演を聴き、相撲道は人生そのものだと思いました。苦しいことが起きた時、どれだけ自己に向き合って前進するか。その姿勢を教えていただき、年齢に関係なく勉強になりました。

相撲界でも、伝統を守りながら、新しいやり方を取り入れ、努力され、素晴らしいと思います。

佐世保市陣の内町●井手 孝広

■「伸びる若手社員はどんなタイプか」という指導者への質問に、「素直な人」との回答が多いと思う。人生「七転び八起き」。失敗しても諦めずに、先輩のアドバイスを素直に取り入れ、挑んでいけば、ピンチをチャンスに変え、成功に近づく。

綱を目指し、大関の意地で頂点まで駆け上がった親方にパワーをいただいた。

佐世保市早苗町●牧 千尋

■師匠 鳴戸親方から、苦労人 稀勢の里への言葉、「迷ったら茨の道を行け！」。

人は得てして楽な方を選択するが、あえて険しい方を選択することで、人としての成長が実現できる。これから私の人生の座右の銘にしたい。

平戸市田平町●瀧下 孝

■超スローで横綱になった二所ノ関親方、一方、超スピードで横綱になった大の里。対照的ですが、素敵なお二人です。4年で故郷に部屋を作られ、横綱を育てられました。

親方、次は2人目の横綱を育ててください。お話上手で楽しかったです。

佐世保市木風町●西 照美

■二所ノ関親方の講演は、大変楽しく有意義で、あっと言う間に時間が過ぎました。ピンチをチャンスに変えた経験をわかりやすく話してください、私も生き方の参考にさせていただきたいと思いました。ピンチを迎えて前向きに生きていきたいです。

強い身体と強い精神力！ぜひ、あと1人横綱を育てて上げてください。

西海市大瀬戸町●荒川 真由美

■中学2年生の時、自ら両親や先生を説得して、相撲の世界に入られたということに驚き、感心しました。確固たる信念のもと、相撲人生を歩まれてこられたのでしょう。何度も出くわすピンチを、その都度チャンスに変えています！

相撲のことは疎い私ですが、「稀勢の里」という四股名は、存じ上げていました。どうぞこれからも、ご活躍くださいますように。

佐世保市もみじが丘町●山川 芳香

■相撲道は不撓不屈で、それを乗り越え、一心不乱に挑戦する姿は、正に親方のパワーポイントによる動画から感じられた。

二所ノ関部屋の繁栄と、横綱大の里関を激励したい。九州場所観戦を楽しみにしています。

佐世保市東浜町●碇屋 秀俊

■今日も実り多い話が聴けて、満足しています。いろいろな知識を深め、素晴らしい言葉でお弟子さんを導き、立派な横綱を育てられ、今後の部屋の成長が楽しみですね。お話が上手で、聴き入っていました。

名古屋場所が楽しみです。

佐世保市鹿子前町●原 逸子

■よさこい演舞を元気よく格好よく、鳴子の音で調子をとっている姿、やる気をもらいました。

二所ノ関親方の現役時代の、あの大金星を思い出しました。大きな怪我を負いながらも、奇跡の大逆転優勝はすごかったです。モンゴル力士の横綱の時代が続いていたけれど、弟子の大の里が第75代横綱に！また、大相撲を観てみようかなと思っています。

佐世保市赤崎町●木村 典子

■よさこいチーム青嵐は、毎年のように上位入賞をしているだけあって、洗練された迫力ある演舞に加え、滑らかな演技に感動しました。

二所ノ関親方の話は、ピンチの後のチャンスを活かすことに努力され、「大の里」を横綱へ育てられました。その「大の里」に次ぐ横綱が生まれる二所ノ関部屋でありたい…と夢を募らせておられる態度に敬服いたしました。

佐世保市大和町●宅島 富士彌

相撲道を通しての気付き

東彼杵郡川棚町 福田 慶子

「夢のひろば」での躍動感あふれる青嵐チームの方々のよさこい演舞で、パワーをいただいてから講演の始まり。勢の里の二所ノ関親方の講演と、大ファンだった元横綱稀勢の里の二所ノ関親方の講演と、大好きな相撲界から、大好きな相撲界が止まりませんでした。稀勢の里の現役時代の真っ向勝負、そして豪快な取組を見て、スカッとしていました。しかし、その陰で、師匠の突然の死、大怪我に直面し、多くの苦難を乗り越えて、相撲道を邁進してこられたのですね。

相撲は、巨体同士がぶつかることも、役立たれていることと推察します。力士が引退するのだから、怪我はつきものだと思います。その怪我も、プラスに変えて、引退後、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科に入り、修了されたこと。後進の指導に

の言葉、「迷った時は、茨の道を行け」をご自身で実践してこられたから、今に通じておられるのだと思います。今回の親方のお話から、私も今に通じる気付きや志

夢のひろば

- ◆日 時／7月16日(水) 午後6時～6時20分
 ◆演目／サイモン&ガーファンクルの歌
 ◆出 演／J・パーカーズ
 ◆出演団体紹介

J・パーカーズは、1960年代のアメリカのデュオグループ「サイモン&ガーファンクル」の歌を歌う3人組です。もうすぐ結成30周年を迎えます。

香川の猿岩コンサートやキャナルシティー福岡、福岡市科学館プラネタリウムコンサート(レQ主催)、東京の恵比寿ガーデンホール(NHK全国バンド自慢コンサート)など、いろいろな場所で歌ってきました。ハモリも、忠実に再現しています。また、アンデスの管楽器を駆使し、P・サイモンのレコード「ライヴ・ライミン」に近い形で演奏しています。

受講生の中には、彼らの歌とともに過ごした方も多いと思いますが、ぜひ青春時代に心を戻し、懐かしく聴いていただければ幸いです。

◆曲 目

1. コンドルは飛んで行く
2. スカボロー・フェア
3. 冬の散歩道
4. サウンド・オブ・サイレンス
5. ボクサー



6月 夢のひろば よさこいチーム 青嵐「よさこい演舞」

佐世保市ハーフミリボン町 松井 昭夫
 ピンチをチャンスに変え続けた親方

佐世保市ハーフミリボン町 松井 昭夫
 ピンチをチャンスに変え続けた親方

地元に部屋を創設し、弟子の育成に励み、大の里には九六(九勝六敗)大関は不要、東の大関になれと指導し、横綱に育て上げた。今後も、さらなる相撲道の追究で、その普及と繁栄のため、一層のご活躍を期待します。

佐世保市ハーフミリボン町 松井 昭夫
 「相撲に愛され、愛した25年でした」という言葉を残し、角界を長く牽引してきた元横綱白鵬が相撲協会を退職した。若くして日本の相撲界に

「素晴らしい横綱人生」

ピンチに学び、チャンスに変える！

もう一段上の高みへ

佐世保市大和町 新北 博美

相撲部屋から関取一人を出すだけでも、すごいことだと聞いたことがあります。新設4年目にして横綱を輩出し、た二所ノ関部屋。この絶好のタイミングでの、二所ノ関親

をもつことができました。親方が、これから相撲界を牽引し、発展のために尽力されることを大いに期待します。そして、新横綱大の里の活躍も楽しみですし、今後の大相撲にも期待しかありません。今回もたくさん貴重なお話を聴けて、素敵なお時間でした。ありがとうございました。

現役力士の時は、勝利インタビューの時でも表情陥しく、口数も少ない印象でした。ところが、引退後は解説をはじめ、NHK BS放送での「大相撲どすこい研」などでも活躍。その番組で、ご自分の体験を混じえ、とてもわかりやすく説明されるのを拝見し、それが大学院で学び、会得されたものであると知りました。

「怪我をしたり、ピンチに陥つたりして学んでいかないと、人間はなかなか変われない」との言葉。何にしても、冷静に何をすべきかを見つめ、向き合い、そこからもう一段上の高みへ押し上げると、並大抵ではない努力をしました。

「夢のひろば」は、「青嵐」のよさこい演舞。「楽しむ」をモットーにされているとのこと。沈滯気味の佐世保を、よさこいで元気に！さて、今回は、待望の二所ノ関親方の講演会。白鵬の連勝をストップし、全国の相撲ファンから、日本人の横綱を期待された稀勢の里関。そ

第75代横綱大の里はまだ25歳。これからどんな大横綱になっていくのか、またそれに続く横綱を二所ノ関親方が育てるのか、期待しています。平戸市出身の平戸海の活躍も併せ、これからも相撲を楽しむたいと思います。

中学卒業後に、厳しい鳴門親方のもとで稽古に励み、努力して念願の優勝、横綱昇進を果たした。「ピンチをチャンスに変え続けた人生」とのこと。四股名の由来も話された。勝つてもガッツボーッズをするなどの教えも。

引退後に、早稲田大学の大学院に入学された、その勉学の意欲がすごい。言葉のマジックを強調された。特に、地道に興味をもたらされたこと。和の成功法則や、日本語は願望実現言語、目標をしつかり決めるやる気スイッチなども熱心に説かれた。

飛び込み、厳しい稽古に耐え、日本国籍まで取得した力士でもある。相撲協会からは充分な説明もなく、あまりにも不誠実な対応ではないだろうか。そんなモヤモヤの気持ちは抱えながら、講演会に臨んだ。

二所ノ関親方は、参加者が講演の内容を理解しやすいようにレジュメを提示し、それに起きた「ピンチ」を「気づき」と学び、そして人との出会いを糧に、「チャンス」につなげていったことを理路整然と説明された。随所に対戦相手との動画も映され、会場は大いに盛り上がった。圧倒的な気迫と実力で土俵を沸かせた元横綱の懐かしい動画に、隣の方とうなづき合い、千切れんばかりの拍手を送った。正々堂々と対戦相手に立ち向かう姿勢、真摯な話し方に接して、今後の角界に希望を見た。

いつの間にか、講演会前の会い、親方を呼んでくださったさせぼ夢大学のスタッフの方々、そして共感し合った隣の方と喜びを分かち合い、お別れをした。今回の親方との出

「素晴らしい講演でしたね」「とても楽しかった」と隣の方と喜びを分かち合い、お別れをした。今回の親方との出

都合により、7月講演会の感想文の募集はありません。

佐世保 人物事典

14

(27) 圓田 陽一 まるた よういち

(28) 三浦 正子 みうら まさこ

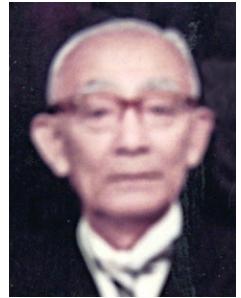
なかしま 中島 なかしまみさとみ眞澄

佐世保史談会 名誉会長

には、明治時代盛んに歌われた「佐世保数え唄」がある。この他、大潟町の「新地節」や「土つきうた」なども、新しく佐世保民謡に加えられている。

昭和三年（一九五八）より、「佐世保史談会」の発起人に名を連ね、同三四四年「談林」一号・三号に「たもと草」（佐世保小唄の思い出）を投稿し活躍した。

民謡研究の第一人者として、県下の民謡発掘に努め、八五歳で永眠した。



圓田 陽一

(28) 三浦 正子

(一八九四～一九七六)

事業家・証券会社経営

明治三二年（一八九九）、北松浦郡大野村（現佐世保市大野町）に誕生。県立佐世保中学校卒業後、大野尋常小学校をはじめとして佐世保市内の各小学校に教師として勤務。詩人野口雨情とも交友があつた。

民謡研究家として知られ、昭和六年（一九三二）九月に、県下の民謡・歌謡・童謡などを掘りおこして、『全長崎県歌謡曲』と銘うつて、一冊の本にまとめて出版した。その後、この本に改訂増補を加え、『長崎県民謡歌謡大全集』として出版した。

子ども服、婦人服作りの研究塾開設。大正時代初期には、世間の人よりも二歩・三歩先駆したトップデザイナーとして見られていた。

昭和七年（一九三二）頃、

県下に残っている民謡や歌謡・童謡など、調査した総数は三千くらいのぼり、今まで世に出なかつた民謡も数多く含まれている。

新しく発掘された民謡の中



三浦 正子

(敬称略)

海軍の町佐世保に軍人が上陸した際の両替の不便さを氣に感じ、小さな両替の看板を出し、約二年後、株式会社とした。同二四年、「佐世保証券株式会社」（平成二三年「いちよし証券」に合併され、各店舗は現在も「いちよし証券」として営業している）を設立し、その取締役社長に就任した。

売るも買うも、世界の動きを見つめ、獨特の判断を下さねばならないのが、この世界に生き残るすべてであつた。株の予想や見通しなどの相談に、判断を誤らず、示唆を与える信念をもつていた。証券業界の男社会に、数十年泳いできたという誇りをもつた女性であった。

婦人会の集いや各種団体の講演などにも、努めて出かけた。社員も、その日の結果をきちんと整理し、報告をしなければ帰宅できなきれない。

昭和四六年（一九七一）、二男に社長職を譲り、会長に就任。「佐世保婦人部会議所」（現佐世保商工会議所女性会）第二代会長として経済界で活躍した。

当日の講演会でも、巧みにパソコンを扱い、流暢に話される姿を見て、相撲道に限らず、引退後の努力のすごさを感じました。

事務局だより

★次号8月号で、来年度の講演会の日時等をお知らせします！

「講演会の開催曜日を、木曜日に戻してほしい。」

このような要望を、多くお聞きすることがあります。働く方々にも受講のチャンスを

という思いから、ノー残業デーとなる企業・団体が多い水曜日を開催曜日としました。

しかしながら、思うように見ながら、「二所ノ関親方は、一言「オッス」。随分パソコンに慣れた様子

見ながら、「いつ、どこで？」と不思議に思つていました。

その答えは、講演の中に出

てきました。現役引退後、通われた早稲田大学の大学院で学ばれたとのこと。

当日の講演会でも、巧みにパソコンを扱い、流暢に話される姿を見て、相撲道に限らず、引退後の努力のすごさを

痛感しました。

は、会議等を通して、来年度以降の運営のあり方を検討して

おり、いずれ皆様にお知らせをしたいと思っているところ

です。ついては、次号「夢のつづき」において、来年度の講演会の予定日等を皆様にお知らせする予定です。（講師は未定）

「夢大学のよさは、偏りな

く様々な方の講演を聴けることです。大変でしようが、未

永く続きますように。」

このような応援の言葉もい

ただいており、スタッフ一同ご期待にお応えできるよ

う頑張らねばと意を強くしたところです。

★7月講演会の感想文の募

集はありません。

都合により、7月16日（水）の感想文の募集はありません。お間違えないように、お願いします。